

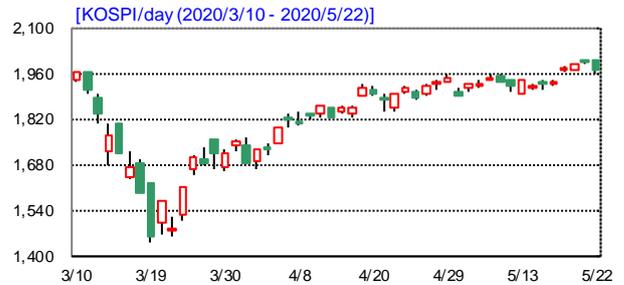


【韓国】 総合指数は週間で2.2%高と3週ぶり反発、今週は2000ポイント目指すか

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で2.2%高と3週ぶりに反発した。各国が新型コロナウイルス感染拡大に伴う封鎖措置を緩和したことから世界経済の回復期待が広がり、前週末の15日から21日まで5連騰。21日には一時、心理的節目の2000ポイントを超え、3月6日以来2カ月半ぶりの高値で引けた。ワクチン治験で有効なデータが示されたことも投資家心理を支えた。韓国政府と韓国銀行（中央銀行）は20日、コマーシャルペーパーの直接購入を目的に10兆ウォンの特別目的事業体を設けると発表。新型コロナの経済への影響を緩和する措置として好感された。ただ、香港への治安法制適用をめぐり米中間の緊張が高まった22日は6営業日ぶりに反落した。今週は2000ポイントを試す展開か。28日に韓国銀行が政策金利を発表する。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS 指数は7.3%高と大幅反発、今週は行動制限緩和をにらんだ展開か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で7.3%高と大幅に反発。原油相場の大幅上昇や欧米株高、ロシアのロックダウンの段階的解除などでセンチメントが大きく改善した。週明け18日はブレント原油先物が一時10%近く上昇したことを受けてエネルギー株が買われ RTS 指数は前営業日比5.5%の大幅高。20日も原油や欧米株の上昇に加え、ロシアでもロックダウンの段階的解除への期待が高まったことで4.1%高となり、終値で約2カ月半ぶりの水準を回復した。週後半は大幅高の反動や米中関係悪化への警戒感が台頭して続落し、週間の上げ幅を縮めた。個別では、ルクオイル、ノバテック、タトネフチなどのエネルギー株や資源のMMC ノリリスクニッケルが軒並み高となった。今週は原油相場やロックダウンの段階的解除をにらんだ展開か。

▼指数チャート



【ベトナム】 ベトナム指数は3.1%高と大幅に3週続伸、今週は米中関係が影響か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で3.1%高と大幅に3週続伸。経済活動再開やコロナワクチン開発期待を背景に欧米株が大きく上昇したことで投資家心理が改善した。週明け18日はVN 指数が1.2%高と4日ぶりに反発。ニューヨークなど主要都市で段階的にロックダウンが解除されたことでセンチメントが改善。19日もコロナワクチン開発期待から前日の米国株が大幅高となったことが好感され、VN 指数は1.1%高。その後も大型銘柄への資金流入が続き、指数は21日まで4日続伸した。21日には一時3月9日以来の水準を回復。22日は香港の統治強化を巡る米中対立激化への警戒感で反落した。個別では鉄鋼のホア・ファット・グループのほか、金融・不動産株が大幅高となり、指数を押し上げた。今週は米中関係や欧米株をにらんだ展開か。

▼指数チャート



【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.9%高、政策金利は予想外の据え置き

ジャカルタ総合指数は3日間の取引で0.9%高と3週ぶりに反発。週後半に連休を控え、小幅なレンジでの値動きだった。週初の18日は、世界各国で新型コロナウイルスの感染防止を目的とする行動制限が緩和傾向にあることが買い材料となり、指数は5営業日ぶりに反発。19日は政策金利引き下げに対する期待感で買われ、場中に一時、4600ポイントを超えたが、中央銀行が市場予想に反して金利の据え置きを決定すると、終値ではこの水準を割り込んだ。20日は3日ぶりに反落して連休前の取引を終えた。今週は国内の経済イベントが少なく、外部要因に左右される展開か。25日は断食明け大祭のため休場。

▼指数チャート



【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】スレーツタイムズ指数は 0.9%安、4月の非石油地場輸出は前年同月比 9.7%増

スレーツタイムズ指数は週間で0.9%安と3週続落。週半ば以降の下落が響いた。週初の18日は、4月の非石油地場輸出が医薬品部門の好調を受けて前年同月比9.7%増と、3カ月連続で前年の水準を上回った効果で続伸。19日は前日のNYダウが新型コロナウイルスワクチンの治験で有望な結果が出たことで3日続伸した流れを引き継ぎ、前日比1.7%上昇した。ただ、20日に反落すると、その後もさえない値動きが続き、22日には終値で2500ポイントを割り込んだ。今週は26日に1-3月期のGDP確定値と4月の鉱工業生産、同月のCPIが発表される予定。25日はハリラヤプアサ（断食明け祭）で休場となる。

▼指数チャート



【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.8%高、更生手続き発表後のタイ国際航空に買い

SET 指数は週間で1.8%高と続伸。週半ばまでの上昇が奏功した。週初の18日は、1-3月期のGDPが前年同期比1.8%減と低迷したものの、前日にショッピングモールなどの商業施設の営業が約2カ月ぶりに再開したことが買い材料となり続伸。19日は経営破綻した政府系のタイ国際航空に買いが集中し、指数は終値で前日比1.8%上昇すると、20日は中央銀行が今年3回目の利下げを決定した効果で、約2カ月半ぶりの高値を更新した。ただ、週後半は軟調で、21日の反落に続き、22日は原油価格が下落した影響でエネルギー株が売られ、続落して引けている。今週は27日に4月の鉱工業生産が発表される予定。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 2.4%高、インド向けパーム油輸出の再開観測を好感

クアラルンプール総合指数は週間で2.4%高と続伸。前週の勢いを引き継ぎ堅調だった。18日は原油価格の上昇に加え、ムヒディン首相就任後、初の連邦議会下院が混乱なく開催されたことが買い材料となり、指数は4営業日続伸。19日は外交上の問題を受け、約4カ月間停止されていたインドへのパーム油輸出が再開されるとの観測からプランテーション株が買われた。21日は新型コロナウイルスのワクチン開発に関する専門家の懐疑的な見方が報じられ、感染拡大への警戒感からゴム手袋メーカー株が指数上昇をけん引。一方、22日は8日ぶりに反落している。今週は25-26日がハリラヤプアサの祝日で休場。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。